

教育実習及び事前指導前後における 実習生の諸意識の様相

岸 光 城 *

Changes in Student's Consciousness about the Teaching Profession and Teaching practice before and after Teaching Practice, Preliminary Training

Mitsuki KISHI *

(Received November 22, 1994)

キーワード：教育実習事前・事後指導、教職志望度、教職適性感、教育実習観

はじめに

教育実習の期間（山口大学教育学部では、3年次後期に附属学校・園での基本実習4週間、4年次前期に公立学校での応用実習2週間）は、今日の欧米諸国の9～18週間、かつての師範学校の8～12週間と比べて長いものではない。限られた実習期間において、学生が教育実習に問題意識と意欲をもって臨み、実践的指導力の基本をできるだけ多く学びとり、今後の課題を確立して大学・学部の講義・演習等により積極的に取り組むようにするためには、教育実習の事前と事後にそのための指導＝学習が必要であるという認識は十数年来、全国大学の教育実習関係者の間でたかまっていた。

山口大学教育学部では昭和58年度から2年間、「教育実習検討委員会」において教育実習の問題点と改善の方向が検討され、報告書『教育実習の改善について』（昭和60年5月15日）がまとめられた。そこでは、「教育実習を大学・学部教育の一環として位置づけ・」、「教育実習を教育研究課題の発見・把握、深化・統合をはかる体験学習の場としてとらえ、学生を指導する必要があること」、「そのために、事前指導・事後指導の充実をはかること」が提言された。それを受けて、昭和60年から2年余間にわたる「教育実習研究委員会」は、とくに教育実習事前指導の具体化をめざし、3年次前期に毎週1コマ、必修の教育実習事前指導としての授業科目「教育実践研究」の新設を中心とする報告書を提出した。このような準備期間をへて山口大学教育学部では平成2年に教育実習事前・事後指導の大綱がまとめられ、平成3年度に試行実施した。昭和63年の教育職員免許法、平成元年の同法施行規則の改正によって、教育実習の単位には「教育実習に係る事前及び事後

* 山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター

指導」の1単位を含むこととなり、平成4年度からは教育実習事前・事後指導が単位化され、本格実施されて三年目を経過した。

教育実習事前・事後指導が所期の目標をどの程度達成しえているのか、学生において教育実習と大学・学部教育が有機的につながりえているのかについては、事前・事後指導実施計画をたて、指導を担当する側においても、いくつかの問題点を把握しており、来年度で現行実施要領5年目をむかえる段階で、諸種の調査研究をしつつ、教育実習事前・事後指導の改善構想をたてなければならない。

I. 目的

山口大学教育学部学生の教職及び教育実習にかかわる諸意識の実態を調査し、今後の教育実習事前・事後指導実施計画案の改善方策をたてるための基礎資料を得ることを目的とする。

II. 対象と方法

教育学部第3年次生で小学校教員養成課程と中学校教員養成課程及び総合文化教育課程の学生を対象とした。調査項目「教職志望度」、「教職適性感」及び「教育実習観」においては、事前指導開始時の4月中旬と終了時の7月上旬、さらに附属学校での教育実習（基本実習）終了後の11月上旬の三度、同一質問項目で回答を求め、「教育実習自信度」は4月と7月に同一質問項目で、それぞれ無記名（ただし、所属の課程と性別は記入）で回答を求めた。有効標本として処理した回答紙は「事前指導」開始時（4月）で学部全学生237名（小学校課程163名、中学校及び総合文化課程74名）、「事前指導」終了時（7月）で221名（小学校課程147名、中学校及び総合文化課程74名）、「教育実習」終了時（11月）で222名（小学校課程162名、中学校及び総合文化課程60名）であった。なお、調査の質問項目において、「教育実習自信度」については神戸大学教育学部教育実習研究会『教育実習の基礎的研究』（昭和59年3月）に掲げられている項目を、「教職適性感」と「教育実習観」については村上嘉一氏の論文「教育実習の前後における実習生の意識と変容」（愛媛大学教育実践研究指導センター紀要No.1, 1983年）から借用した。

III. 結果と考察

1. 教職志望度について

教育実習事前指導を開始した4月と事前指導が終了した7月及び附属学校での教育実習が終了した11月の三度にわたり、同一項目で教職志望の度合いをたずねた。

設問

あなたは、いま、教職を志望していますか。いずれかに○印をしてください。

1. 教職を強く志望している。
2. 一応、教職志望である。
3. 教職と教職以外の選択に迷っている。
4. 教職を志望していない。

第1表 教職志望度集計表

4月		1 教職を強く志望している	2 一応、教職志望である	3 教職と教職以外の選択に迷っている	4 教職を志望していない
学部全学生		62 (26.2%)	72(30.4%)	65(27.4%)	38(16.0%)
小学校課程	全体	46 (28.2%)	53(32.5%)	43(26.4%)	21(12.9%)
	男	25(43.1%)	19(32.8%)	9(15.6%)	6(8.6%)
	女	21(20.0%)	34(32.4%)	34(32.4%)	15(15.2%)
中合学校文化・課程総程	全体	16(21.6%)	19(25.7%)	22(29.7%)	17(23.0%)
	男	10(27.8%)	7(19.4%)	12(36.1%)	7(19.4%)
	女	6(15.8%)	12(31.6%)	10(26.3%)	10(26.3%)

7月

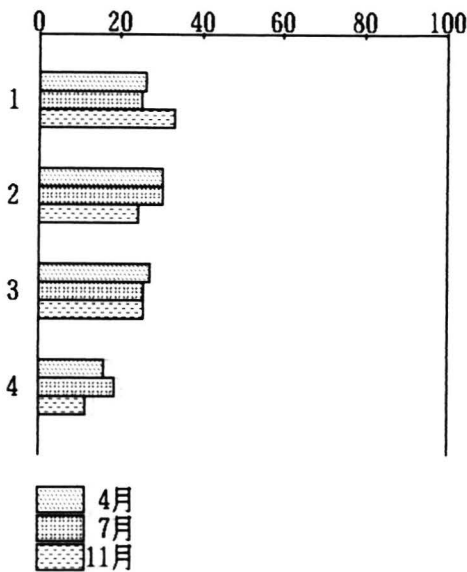
学部全学生		56(25.3%)	67(30.3%)	57(25.8%)	41(18.6%)
小学校課程	全体	42(28.6%)	45(30.6%)	36(24.5%)	24(16.3%)
	男	22(44.0%)	19(27.5%)	8(15.7%)	6(11.8%)
	女	20(20.6%)	31(32.0%)	28(28.9%)	18(18.6%)
中合学校文化・課程総程	全体	14(18.9%)	22(29.7%)	21(28.4%)	17(23.0%)
	男	7(20.6%)	13(38.2%)	6(17.6%)	8(23.5%)
	女	7(19.5%)	9(22.0%)	15(36.6%)	9(22.0%)

11月

学部全学生		74(33.3%)	54(24.3%)	57(25.7%)	26(11.7%)
小学校課程	全体	56(34.6%)	41(25.3%)	42(25.9%)	17(10.5%)
	男	26(44.8%)	13(22.4%)	12(20.7%)	5(8.7%)
	女	30(28.9%)	28(26.9%)	30(28.8%)	12(11.5%)
中合学校文化・課程総程	全体	18(30.0%)	13(21.7%)	15(25.0%)	9(15.0%)
	男	7(25.0%)	11(39.3%)	4(14.3%)	5(17.9%)
	女	11(34.4%)	2(6.3%)	11(34.4%)	4(12.5%)

(無答11)

第1図



考察

教員採用が厳しい現状のなかで、ともかくも教師になりたいと希望している学生はいずれの時期でも六割弱である。

教育実習後は2の「一応教職志望」と4の「教職不志望」が減少し、1の「教職を強く志望する」学生が+から+に増加している。

男女を比べてみると、教員採用状況を反映して、女子学生の志望率が低く、とくに中学校・総合文化課程は40%台である。男子学生は小学校課程で76%－72%－67%と減少しているが、中学校・総合文化課程では47%－59%－64%と志望率が上昇している。

2. 教育実習への自信・不安度について

「事前指導」の開始時（4月）と終了時（7月）に教育実習にどの程度の自信・不安をもっているかをたずねた。設問は以下のようにになっている。

いま、教育実習（基本実習）に対してどんな気持ちをもっていますか。
いずれかに○をしてください。

1. おおむね自信がある。
2. なんとかやっていけそう。
3. 漠然としている
4. 自信がない
5. すごく不安である

本項の集計表は次頁にかかげる。

考察

教育学部全学生において、選択肢1と2の合計及び選択肢4と5の合計は、神戸大学では34%－24%であるが、山口大学では4月で21%－40%となっている。7月の時点でも18%－42%と「事前指導」前後で変化していない。

女子学生は選択肢4と5の合計が小学校課程では58%（4月）、51%（7月）、中学校・総合文化課程では47%（4月）、50%（7月）となっており、男子学生とはかなりの差異がある。この傾向は2年前でも同様であった。「事前指導」で配慮しなければならない。

3. 教職適性感について

4月、7月、11月の三度にわたり、学生に自己の教職適性感をたずねた。

設問項目と集計結果は第3表のとおりである。

第2表 教育実習への自信・不安度

A 「事前指導」開始時（4月）

		1 おおむね 自信があ る	2 なんとか やってい けそうだ	3 漠然とし ている	4 自信がな い	5 すごく不 安である
学部全学生		7 (3.0%)	43 (18.1%)	86 (36.3%)	44 (18.6%)	57 (24.1%)
小学校 課程	全体	3 (1.8%)	27 (16.6%)	59 (36.2%)	29 (17.8%)	45 (27.6%)
	男	2 (3.4%)	14 (23.7%)	29 (49.2%)	9 (15.3%)	5 (8.5%)
	女	1 (1.0%)	13 (12.5%)	30 (28.8%)	20 (19.2%)	40 (38.5%)
中合 学文 校化 ・課 総程	全体	4 (5.4%)	16 (21.6%)	27 (36.5%)	15 (20.3%)	12 (16.2%)
	男	4 (11.1%)	7 (19.4%)	16 (44.4%)	5 (13.9%)	4 (11.1%)
	女	0 (0.0%)	9 (23.7%)	11 (28.9%)	10 (26.3%)	8 (21.1%)

B 「事前指導」終了時（7月）

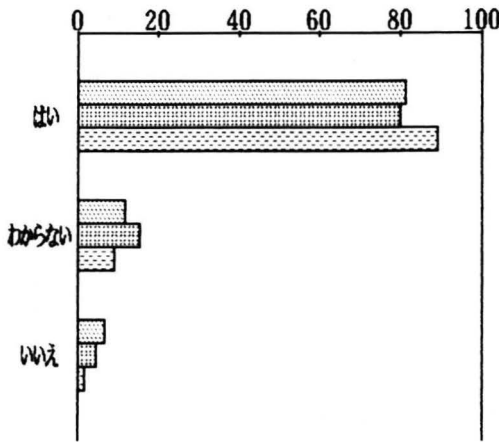
		1 おおむね 自信があ る	2 なんとか やってい けそうだ	3 漠然とし ている	4 自信がな い	5 すごく不 安である
学部全学生		7 (3.2%)	33 (14.9%)	88 (39.8%)	45 (20.4%)	48 (21.7%)
小学校 課程	全体	4 (2.7%)	25 (17.0%)	55 (37.4%)	29 (19.7%)	34 (23.2%)
	男	4 (8.0%)	14 (28.0%)	18 (36.0%)	9 (18.0%)	5 (10.0%)
	女	0 (0.0%)	11 (11.3%)	37 (38.1%)	20 (20.6%)	29 (29.9%)
中合 学文 校化 ・課 総程	全体	3 (4.1%)	8 (10.8%)	33 (44.6%)	16 (21.6%)	14 (18.9%)
	男	3 (8.8%)	5 (14.7%)	16 (47.1%)	7 (20.6%)	3 (8.8%)
	女	0 (0.0%)	3 (7.5%)	17 (42.5%)	9 (22.5%)	11 (27.5%)

第3表 教職適性感集計表

	「事前指導」開始時(4月) N = 237				「事前指導」終了時(7月) N = 221				教育実習(基本実習)終了時(11月) N = 222			
	はい	わからない	いいえ	無	はい	わからない	いいえ	無	はい	わからない	いいえ	無
1.あなたは、子どもや生徒と遊ぶことが好きですか	193 81.4%	28 11.8%	16 6.8%		177 80.1%	34 15.4%	10 4.5%		198 89.2%	20 9.0%	4 1.8%	
2.あなたは、子どもや生徒に勉強を教えることは苦手ですか	46 19.4%	91 38.4%	100 42.2%		41 18.6%	101 45.7%	79 35.7%		43 19.4%	81 36.5%	98 44.1%	
3.あなたは、教師としての仕事をうまくやれているだけの能力があると思いますか	52 21.9%	108 45.6%	77 32.5%		20 9.0%	133 60.2%	67 30.3%	1	44 19.8%	122 55.0%	56 25.2%	
4.あなたは、参観人が見ている前で子どもや生徒に教えることは、非常にいやですか	139 58.6%	38 16.0%	60 25.3%		125 56.6%	48 21.8%	48 21.7%		41 18.5%	40 18.0%	141 63.5%	
5.あなたは、先輩教師や仲間と一緒に協力して教育をやっていくことができますか	160 67.5%	60 25.3%	17 7.2%		134 60.6%	76 34.3%	11 5.0%		157 70.7%	56 25.2%	9 4.1%	
6.あなたは、子どもや生徒の親などと、子どもの様子や問題について話し合うことは苦手ですか	42 17.7%	82 34.6%	113 47.7%		30 13.6%	80 36.2%	111 50.2%		31 14.0%	57 25.7%	134 60.4%	
7.あなたは、教育の問題を学問的に研究することが好きですか	70 29.5%	75 31.6%	91 38.4%	1	64 29.0%	67 30.3%	90 40.7%		82 36.9%	65 29.3%	74 33.3%	1
8.あなたは、自分の性格が教師の仕事に向いていると思いますか	86 36.3%	84 35.4%	67 28.3%		60 27.1%	106 48.0%	54 24.4%	1	70 31.5%	106 47.7%	45 20.3%	1

考察

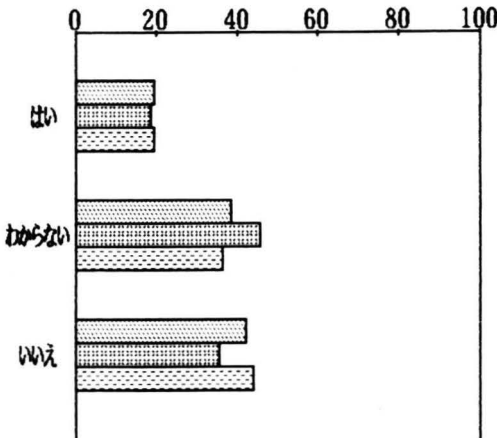
1. あなたは、子どもや生徒と遊ぶことが好きですか。



第2図

つねに子どもとともに居り、子どもに思いをむけていることが教職の基本であるが、このことの認識は教育学部学生は当然のことながら高い結果を示している。とりわけ、子どもとの交流体験をもった教育実習後は9割の学生が「はい」と回答している。事前指導による変動はない。

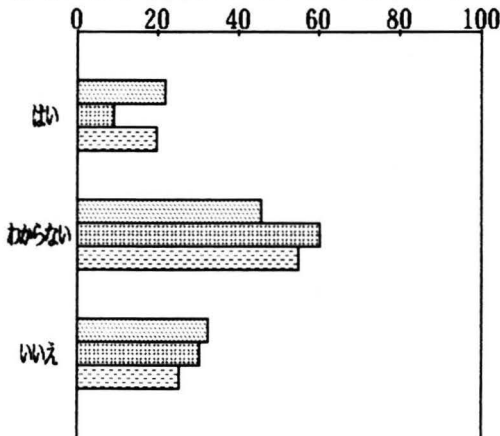
2. あなたは、子どもや生徒に勉強を教えることは苦手ですか。



第3図

この設問は、教育実践の場での教師としての自己の技量の有無の意識をたずねたものである。「苦手ではない」と思う者が4割程度であり、教育実習後の変動はない（愛媛大学では42%から55%へ上昇している）。実習体験で若干の技量は得たが、同時に、自己の実践的指導力について多くの課題をもったからであろうか。

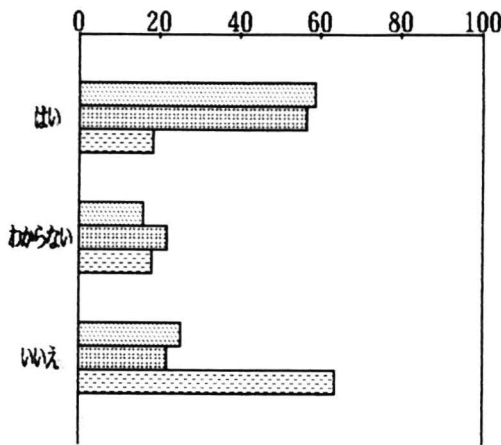
3. あなたは、教師としての仕事をうまくやっただけの能力があると思いますか。



第4図

この設問は、教師としての資質、能力全体に思いを向け、教師としての仕事をやっただけの自己の可能性の意識をたずねたものであるが、「はい」と回答した者が設問2と同様、2割程度にとどまっている。ただ、「いいえ」と回答した者が教育実習後若干減少しているが、これは努力すればやっただけのようになる自己の可能性への信頼感がはたらいっているからであろうか。

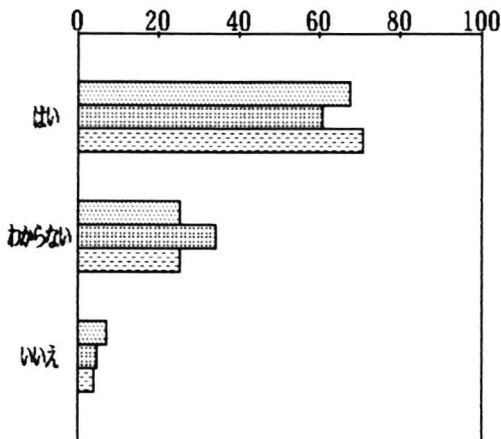
4. あなたは、参観人が見ている前で子どもや生徒に教えることは、非常にいやですか。



第5図

授業を参観されるのは「いやだ」という気持ちは自然の情であるが、教師としての専門的力量形成にとって、それはのりこえられるべきだという認識は教育実習体験でたしかに得られている。講義形式の事前指導によっては、このような認識は形成されない。

5. あなたは、先輩教師や仲間と一緒に協力して教育をやっていくことができますか。

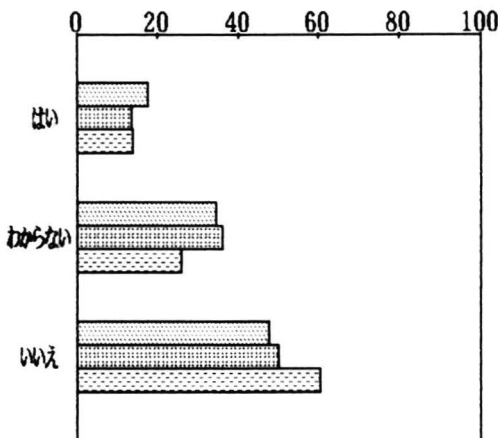


第6図

教師としての資質のひとつは、他人と協力しあえること、閉鎖的にならないことであるが、この点の学生の自己診断の結果はおおむね良好である。

教育実習前では「はい」と回答した者が愛媛大学学生と同率の67.5%であるが、同大学が実習後は82.2%と上昇しているのに対し、本学ではあまり上昇していない。

6. あなたは、子どもや生徒の親などと、子どもの様子や問題について話し合うことは苦手ですか。

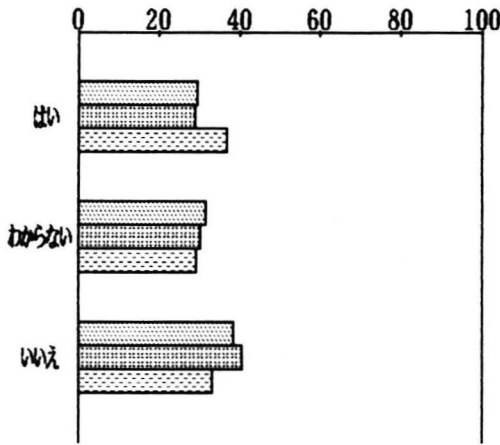


第7図

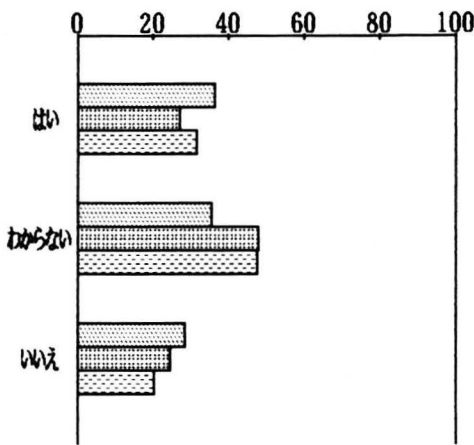
学生は子どもや関係者と子どもの成長や指導について積極的に話し合う自信はまだないであろうが、しかし教師は子どもの教育について独善的であるではないという認識はもっているようで、とくに実習体験後は苦手意識を否定、克服しようとする傾向が強くなっている。

7. あなたは、教育の問題を学問的に研究することが好きですか。

第8図



8. あなたは、自分の性格が教師の仕事に向いていると思いますか。



教育実習事前指導の設定のねらいのひとつは、教育実習を単なる見習的なものとしてではなく、教育問題追究の研究型教育実習とすることにあるのだが、学生の現状はそうなりえていない。事前指導の内容、方法に大きな問題を投げかけられている。

第9図

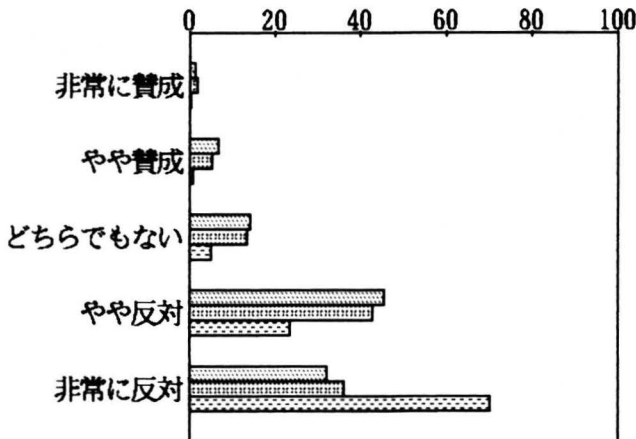
教師向きの性格というものを学生がどのようにイメージしているのかは把握していないが、愛媛大学学生は「はい」とかいとうする者が実習前17%実習後8%となっているのに対し、山口大学学生は36% - 32%と高くなっている。しかし、実習後は減少し、「わからない」とする者が48%となっている。教育実習体験によって、人間的課題を意識するからであろうか。

4. 教育実習観について

学生の教育実習観についても、4月 - 7月 - 11月の三度にわたり、たずねた。設問項目と集計結果は以下のとおりである。

考察

1. 教育実習は時間や労働の負担が大きいわりには、あまり意味があるとは考えられない。

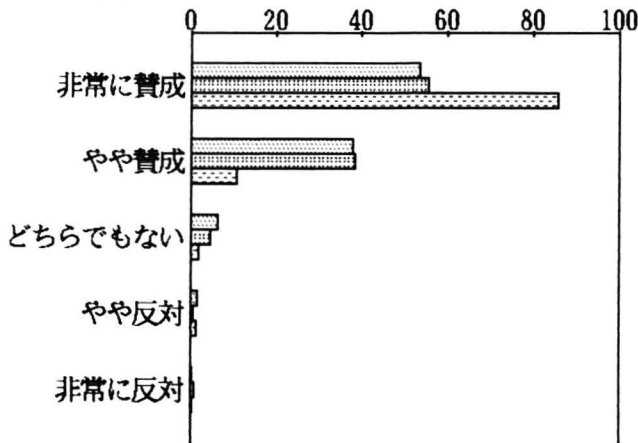


第10図

教育実習不用論に対して8割の学生が反対で、実習終了後は94%に上昇している。

課程別に見ると、小学校課程の学生は81% (4月) - 83% (7月) - 96% (11月) と反対しているが、中学校・総合文化課程学生はやや低く70% - 72% - 88%となっている。

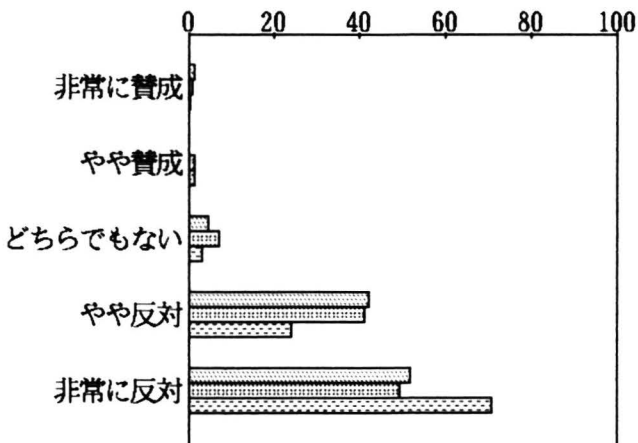
2. 教育実習は 教師になろうとする者にとって、教育に対する心構えや児童・生徒に対する理解の基礎を与えてくれる点で有意義である。



第11図

92% (4月) - 95% (7月) - 96% (11月) とどの時点でも9割以上の学生が教育実習は意義あるものと認めている。愛媛大学と同様に、「やや賛成」という消極的賛成派も教育実習後は積極的賛成に転じている。

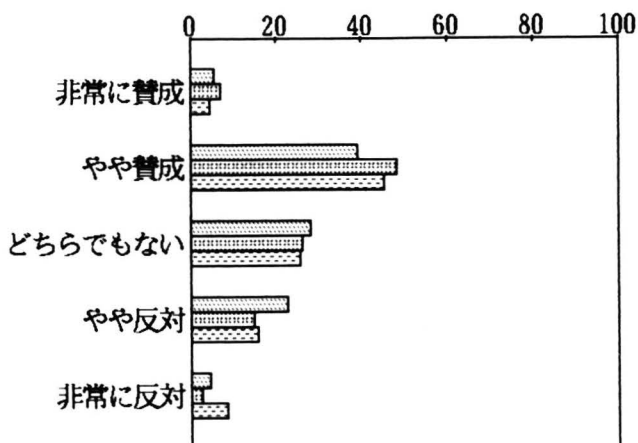
3. 教職につけば、児童・生徒に当然接触することになるのだから、在学中にわざわざ教育実習をする必要はない。



第12図

ここではどの時点でも9割の学生が教育実習不用論に反対。教育実習終了後での「反対」は小学校課程では96%であるが、中学校・総合文化課程は90%とやや低くなっている。男子学生は小学校課程でも中学校課程でも4月と7月の時点で女子学生より3~8ポイント低いが、実習後は男女の差異はない。

4. 在学中の学生は修学途中で専門の学力がまだ十分とはいえないから、教育実習で児童・生徒を教えることは子どもにとって気の毒である。

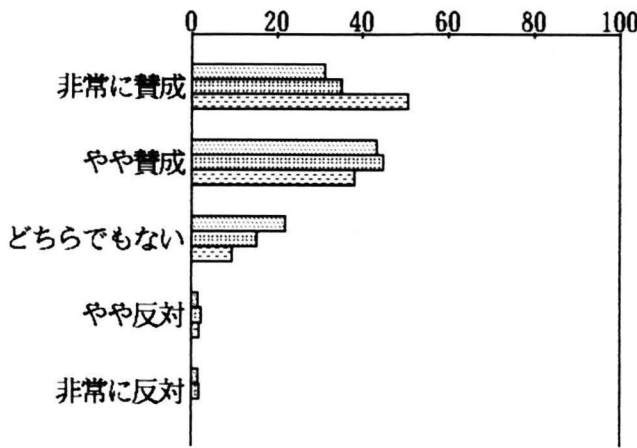


第13図

「非常に賛成」と「やや賛成」の合計が4月で45%、実習後は50% (愛媛大学は48% - 51%と同様) で半数の学生が子どもに「気の毒である」という意識を持っている。この設問は判断に迷うところがあったようで、記入修正したり、コメント (例, 「でも付属の子はそれを承知で入学しているので・・・」とか「両面あり」として「どちらでもない」に○印) をつけ

た学生もいた。

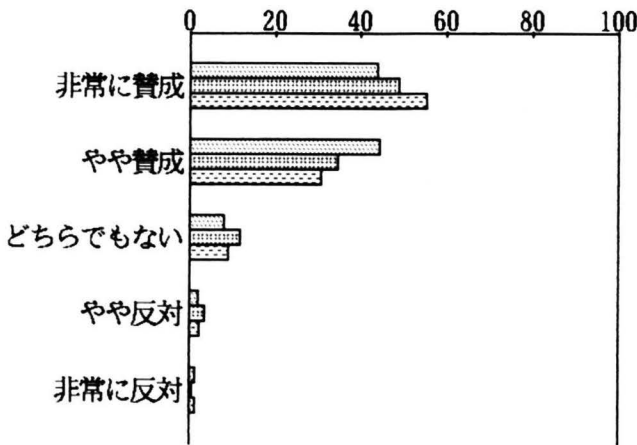
5. 教育実習は学生が大学にもどってからの学習や研究の方向を明確にするために必要である。



第14図

教育実習を大学・学部での講義・演習等と関連させて、その意義を認める考え方の傾向をたずねたものであるが、事前指導開始時75%、同終了後は80%、教育実習終了後は89%としだいに上昇している。学生のこの意識の向上に応える教育実習事後指導の充実が必要である。

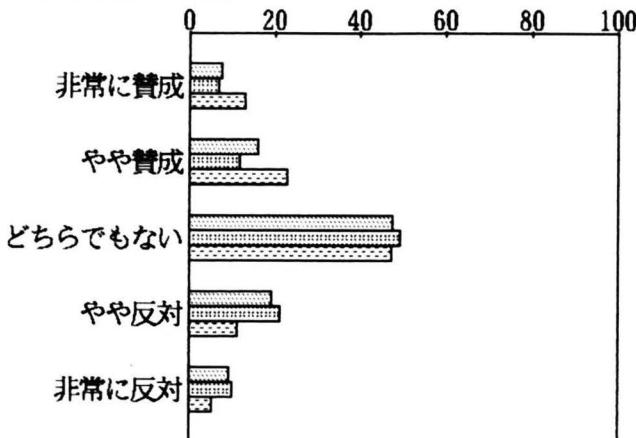
6. 教育実習は教職に対する自分の適性を見いだすうえで有意義である。



第15図

教育実習の意義のひとつは自己の教職への適性を見極めることと捉えている学生は4月で88%、11月で86%であり、妥当な傾向である。教職を志望するかどうかで迷っている者が多い女子学生はこの設問ではどの時期においても男子学生より平均5ポイント高くなっている。

7. 教育実習（基本実習）は4週間実施されているが、目標・内容から考えて、これだけの期間では不十分である。



第16図

教育実習に行く前の学生は「附属学校での1ヶ月間の実習は大変だ、長い」と思っているが、実習終了後は「期間はもう少しあった方がよい」と言う者が多くなる傾向はつかんでいたが、この調査でそのことがはっきりした。4週間では不十分とする学生が4月で24%、実習後は36%

となる（愛媛大学では34%から64%へと高く上昇している）。男女を比較すると、4月で男子学生は31%であるのに対し、女子学生は19%、7月で24%－15%、実習後は50%－27%となっており、男子学生より女子学生の方が教育実習に負担を感じているようである。教育実習に不安感をもつのは女子学生に多いことと一致する。